

2.3 指標

短期目標:『自然と共生し多様な命を育みながら世代を超えて学び楽しみつなげるまち
～多様な命を育む清流を取り戻す～』

名称	概要と目標	状態目標	行動目標	行動計画	施策内容	指標	現状値(2024年度)	目標値(2030年度)				
基本戦略1	生物多様性の保全・再生 「自然と自然をつなげる」 残された自然を保全し、生物多様性の豊かな自然環境を再生することで、その自然をつなげて生態系ネットワークを創出していきます。	自然がつながり生態系ネットワークが創出されたまち	残された自然を保全し、生物多様性の豊かな自然環境を再生する	1 生物多様性を保全します	水辺環境の保全・再生 湧水の保全	①河川のBOD、DO(溶存酸素)の環境基準達成率(%) ②代表的な湧水地での湧水の状況 ③雨水貯留施設・浸透施設の助成件数	①BOD:75%、DO:100% ②著しい変化は無し(令和6年8月に代表的な湧水(7地点)の状況を目視確認) ③10件(159,150円)	①環境基準の達成率100% ②代表的な湧水(7地点)の状況に著しい変化がない ③10件(240,000円)				
					身近な自然環境の保全・再生	④都市公園の面積、数(累計)	④面積:180.18ha 数:430箇所	④面積:181ha 数:445箇所				
					里山、里海の保全・再生	⑤鳥類ラインセンスシンボル種の確認数(北東・北西・中部)および鳥獣保護区の鳥獣確認数(南部)	⑤シンボル種:1,337羽 鳥獣保護区:82種	⑤維持→もしくは増加↑				
				2 自然共生サイトの取り組みを進めます	市域内での自然共生サイト登録に向けた取り組み	⑥保護地等或等の市域に対する面積割合(累計)	⑥面積割合:約1.08%(登録数1箇所) (面積0.049km ² (国分川)+0.56km ² (行徳鳥獣保護区)=0.609km ²)	⑥面積割合:29%				
					自然共生サイトの維持管理	⑦自然共生サイトでの活動回数	⑦2回	⑦2回				
				3 外来種による被害の抑制を図ります	外来生物の拡散防止	⑧市民の外来生物についての認知度(いちもこ)	⑧—	⑧「外来生物という言葉を知っている」人は90%				
					特定外来生物の分布、生息・生育状況の把握	⑨大町公園におけるアライグマ出現率	⑨指数:0.11 上昇率:—	⑨指数:0.19以下、 上昇率:前年度比10%未満				
					特定外来生物の防除	⑩特定外来生物の捕獲数、捕獲ワナ設置件数※1	⑩捕獲数:31頭、設置件数:40基	⑩捕獲数及び設置件数の減少、				
				基本戦略2	豊かな文化と景観の保全・創出 「文化と文化をつなげる」 自然とのかかわりの中で豊かな暮らしを支えてきた文化や地域の自然に根差した多様な景観を守りつなげていきます。	豊かな文化と景観が保全・創出されたまち	豊かな暮らしを支えてきた文化や地域の自然に根差した多様な景観を守る	1 伝統文化と自然の結びつきについての知識を広めます	地域での伝統ある行事と自然環境の結びつきを周知	⑪イベント数(こめっとくらぶ) ⑫イベント参加数(ノリ渡さ体験)	⑪12回 ⑫学校数:3校	⑪回数維持→(12回) ⑫学校数:10校
								2 文化的資産や社寺林のある景観を守ります	社寺と周辺緑地、巨樹巨木の景観保全	⑬市川市保存樹木協定制度における協定本数(累計)	⑬186本	⑬290本
基本戦略3	様々な人や組織との協働 「人と人をつなげる」 様々な主体との連携により生物多様性を保全していくために、人と人が手をたすさえ、協働による取り組みを進めていきます。	様々な主体との連携により生物多様性が保全されたまち	人と人が手をたすさえ、協働による取り組みを進める					1 市民と事業者の市の協働により自然環境の保全を行います	企業連携の推進	⑭企業による自然共生サイトの支援実績(支援証明書発行累計数)	⑭0件	⑭11件
				2 多くの人が自然環境に興味をもつ取り組みを行います	市内学校との連携の推進	⑮自然博物館による教育普及事業の実施	⑮出前授業、グリーンスクール等	⑮市内の学校等からの依頼に応じて実施※2				
					生物多様性について周知・啓発の推進	⑯自然環境講座等の開催数 ⑰「生物多様性」という言葉の認知度	⑯2回 ⑰85% (45%(聞いたことがあり内容も知っている)+40%(聞いたことはあるが内容は知らない))	⑯8回 ⑰認知度 90%				
					市民ボランティア活動の推進	⑱環境活動団体登録数(環境活動団体・緑のボランティア団体累計数)	⑱環境活動団体:31団体 緑のボランティア団体:8団体	⑱団体数増加↑				
基本戦略4	生物多様性の持続可能な利用 「自然と文化と人をつなげる」 活発な経済活動によりもたらされる豊かな生活や自然とのつながりの中で形成された地域性に富む文化をこどもたちの未来につなげていきます。	豊かな生活と自然とのつながりの中で形成された地域性に富む文化のまち	生物多様性の持続可能な利用による活発な経済活動を進める	1 自然にふれあえる機会を作ります	自然にふれあえる場の提供	⑳あいぬすとの来館者数(累計)	⑳38,114人	⑳43,000人				
				2 地球温暖化対策に取り組めます	再エネ、省エネの知識の普及 グリーンインフラの推進	㉑太陽光発電設備(10kW未満)の設置容量(累計) ㉒グリーンインフラに関する施策数(累計)	㉑27,830kW ㉒—	㉑178,269kW ㉒グリーンインフラに関する施策数増加↑				
				3 生物多様性に配慮した事業を行います	公共事業における生物多様性への配慮	㉓生物多様性への意識(庁内アンケート)※3	㉓—	㉓100%				
					事業活動における生物多様性への配慮	㉔30by30アライアンスに参加した市内の企業数(累計)	㉔22社	㉔企業数増加↑				
				4 生物多様性を活かした地域活性化に取り組めます	自然共生サイトをはじめとした自然豊かな場の活用	㉕自然共生サイトを環境学習の場として活用したイベントの開催数 ㉖大柏川第一調節池緑地での市民向け講座開催数	㉕11回 ㉖23回	㉕イベント開催数増加↑ ㉖24回				
					市民のレクリエーションの推進	㉗動物園来園者数 ㉘いちかわ市民キャンプ場・大洲防災公園・広尾防災公園・ひあパークにおけるバーベキュー場の利用者数	㉗278,910人 ㉘計13,381人	㉗来園者数増加↑ ㉘計13,610人				

※1 千葉県アライグマ防除実施計画に基づき市が設置したもの(捕獲ワナは市民からの要望に対し、必要に応じて設置)

※2 評価は博物館協議会での評価による

※3 「自然環境に配慮すべきと考えられる事業を行っている」と答えた職員の中で「生物多様性への意識をもって事業を行っている」と答えた割合